

# ドン・ボスコの風

Joyful Communication!

SALESIAN  
BULLETIN  
JAPAN

January 2016

No. 16

16



インタビュー  
ドン・ボスコの教え子たち  
漆畠修さん



サレジオ家族探訪  
城星学園

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・  
サンタマリアスイミングスクール



もっとキミに伝え隊!!  
土屋茂明神父

サレジアン小伝  
ありがとう! スミス神父

温厚な性格で誰からも慕われた司祭



DB 200 特集

# SYM JAPAN

~新たな出発~

# 始動!



DUO MARGHERITA  
DON BOSCO



表紙  
サレジオ青年巡礼2日目の8月12日、トリノ・ヴァルドッコの中庭にあるドン・ボスコ像との1枚。参加者たちのサインが入った「DON BOSCO JAPAN」の旗が白く映える。



Photo by ANS

2015年8月15日、SYM DON BOSCO 2015にて。ヨッセ・ドン・ボスコへ徒歩で向かう若者たち。

**私** たちサレジオ家族は今、「若者と共にいる」という決意を新たにしています。なぜ若者を大切にするのでしょうか？これまで私たちのやり方は「大人が若者のために、教え導いてあげる」という考えが強かったかもしれません。若者に、大人の夢や希望を託してきたということです。

しかしサレジオ会のフェルナンデス総長は「若者こそが、私たちに夢と希望を与え、私たちを救う存在なのです」と繰り返し述べています。「若者がもっている夢や希望、若いエネルギーこそが、私たちを未来に導く力の源なのだ」ということを私たちは悟りつつあります。

2015年8月、イタリアに5千人を超える若者が集まったSYM（サレジオ青年運動）世界大会では、あらゆるイベントの企画・運営が若者自身の手で行われ、若者らしい喜び、センス、コミュニケーション、行動力が大いに發揮されていました。そして日本でも、SYMがいよいよ動き始めました。昨年11月に東京カテドラルで行われたSYM青年のシンポジウムでも、彼らのいきいきとした発言は、私たちに豊かな悟りを与えてくれました。

「きょう、神の声を聞くなら、神に心を閉じてはならない」（詩編95）と聖書にあります。若者の夢は、神が私たちに与えてくださる夢です。若者の叫びをとおして、神は私たちに語りかけてくださいます。

ドン・ボスコは若者に「私はきみたちと共にいる」と繰り返しました。若者の皆さんは、夢や希望、悩みや不安、皆さんの生き方をどうぞ分かち合ってください。若者の生きた言葉に耳を傾けましょう。「若者と共に生きる」ことによって、私たちサレジオ家族は、生かされていくのです。

2016年1月1日 神の母聖マリアの祭日に

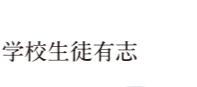


マリオ 山野内 優昭 やまのうち・みちあき

1955年大分県佐伯市生まれ。60歳。8歳の時、家族とアルゼンチンへ移住。29歳で司祭叙階。アルゼンチンの哲学院で哲学、社会学などを教える。司牧担当・院長・アルゼンチンとパラグアイ6管区の修練長を経て、1997年（41歳）帰国。日本のサレジオ会員として働く決意をする。育英高専・杉並支部院長、調布サレジオ神学院院長、副管区長・サレジオ家族担当・養成担当を務め、2014年12月より日本管区長。趣味はギター演奏。

## Contents もくじ

- 3 Message ●「若者と人生を分かち合う」
- 4 DB200 特集・SYM JAPAN始動! ~新たな出発~
- 6 12日間の僕らの旅! SYM DON BOSCO 2015 in トリノ+アッジ+ローマ
- 8 SYMの衝撃 ~イタリア巡礼の灯~
- 10 今、僕たちにできること。 ——サレジオ青年の主張を紐解く
- 12 「若者と共に生きる」とは?
- 13 ドン・ボスコ生誕200周年ニュース ダイジェスト版  
全国の200周年関連イベント報告
- 16 世界のサレジオ家族ニュース
- 18 インタビュー・ドン・ボスコの教え子たち  
漆畠修さん from 静岡サレジオ幼稚園・小学校
- 20 サレジオ家族探訪・城星学園  
幼稚園・小学校・中学校・高等学校・サンタマリアスイミングスクール
- 22 サレジアンNow ●ミカエル・モスカ神父 100歳おめでとうございます!
- 24 もっとキミに伝え隊!! ● 土屋茂明神父
- 25 サレジアン小伝 ● ありがとう! スミス神父  
温厚な性格で誰からも慕われた司祭
- 26 News ● チマッティ神父帰天50周年
- 28 活動報告 ● 茨城県常総地区を訪問して サレジオ学院中学校生徒有志
- 29 Info ● お知らせ
- 31 読者プレゼント



ドン・ボスコとは？

「青少年の友」と呼ばれ、助けを必要とする若者たちのために生涯を献けた神父。1815年イタリア生まれ、名前はヨハネ（イタリア語でジョヴァンニ）。ドン・ボスコは「ボスコ神父」の意味。青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888年帰天。

サレジオ家族とは？

ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道者・信徒・協力者たち。世界130以上の国で、30団体、40万人以上のメンバーが、学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい人のために奉仕している。サレジアンファミリーとも呼ばれる。

「ドン・ボスコの風」について —— 「ドン・ボスコの風」は、喜びを共にし、サレジオ家族の原点を見つめ、絆を深め、社会・世界に羽ばたいて、その実りを分かち合うためのコミュニケーション誌を目指しています。ドン・ボスコの精神を多くの方々と共有し、新しいつながりに広げていくきっかけとしてご活用いただければ幸いです。皆様からの情報提供とご支援をよろしくお願いいたします。



SYMとは、Salesian Youth Movement (サレジオ青年運動) の略で、サレジオ青少年司牧にかかるさまざまな団体やグループに属する若者の運動である。世界のあらゆる地域で、サレジオ家族のグループが共にこの歩みを進めている。

SYM DON BOSCO 2015は、ドン・ボスコ生誕200周年の祝いにあたって世界のサレジオ青年が集まり、出会いと交流を通してドン・ボスコが若者に望んでいた「神と共にいる喜び、仲間と共にいる喜びを生きること」を体験する若者の大会である。世界54か国から5千人以上が参加した大きなイベントとなつた。

日本では、この機会に初めてSYMに参加。大会開催期間に合わせて、今までこの忘れない12日間の恵みを、ここで分かち合いたい。



# SYM JAPAN 始動! ～新たな出発～

DB200  
特集

2015年、夏。全世界のサレジオ青年による青年のための大会「SYM DON BOSCO 2015」が開催された。8月16日のドン・ボスコ生誕200周年を共に祝うため、イタリア・トリノに世界中から若者が集い、この日本からも18人が参加した。大会後、その参加者たちを中心に、日本でも本格的に「SYM」が始動。世界のサレジオ青年と出会い、共に過ごした7日間。彼らは何を思い、何を感じたのだろうか。SYM JAPANのはじまりとこれからに迫る――。

取材・文・写真・編集部・SYM JAPANスタッフ

12日間の巡礼を終えて、帰路に就く。  
機内から見た夕焼け。

## サレジオ青年巡礼に参加して

この12日間は人生の中でいちばん充実して  
いたし、輝いていたかなと思える時間でした。

普通若い人って遊ぶことばかり考えているけど、ここに来て会う人はみんな神様のことを  
考えて、ドン・ボスコを慕っていることに驚いた……！  
眞面目な若者もたくさんいて、今の世も捨てたもんじゃないね！

毎日写真でしか見たことないような教会を巡つて、何百年も前にこんなすごいものを作つて  
お祈りしていましたんだと感動しました。教会にいる周りの仲間や友達に、少しずつでもドン・ボスコのような  
対応ができるように変われたらいいなと思いました。

キリスト教がこんなに勢いのある宗教だとは  
思わなかった！世界中から人が集まって一緒に盛り上がりでお祝いするだけのパワーがあるんだ  
と、すごく驚きました。

こんなに毎日お祈りしたいと思ったことが今までなかつたので、自分にとって大きな変化  
が起きた日々だったのだと思います。日本語ミサの時、不思議と「ああ、楽しいミサだな」と思いました。こんなに密接にキリスト教とかかわって、嬉しかつたです。

正直、最近は巡礼に参加することとか、クリスチャンだって周りに言うことが恥ずかしい  
と思い始めました。この巡礼に行くことを友達に言つた時も、「ガチ勢だね」と言われたりして（笑）  
でも、世界中の人が集まっているのを目の当たりにして、クリスチャンであることが幸せだなって思えたり、  
教会に通つていてよかったなと思っています。

ドン・ボスコゆかりの地を巡りましたが、ドン・  
ボスコの言葉どおり、ドン・ボスコは若者のために  
生き、学び、働き、命をかけて愛し、守り導いたことを感じることができました。偶然の出会いでは  
ありましたが、サレジオ会の教会に招かれたこと、ドン・  
ボスコを通してキリストと出会い、育まれたごとに  
とても感謝しています。

日曜学校のリーダーを理由に部活を休む時、「教会で何やってるの？」って聞かれることが多いです。私が「ミサやって、勉強して、遊んで」と答えると、「まだ遊んでるんだ」というイメージをもたれます。だから、最近はどうして教会  
に行ってるのかなということがわかりました。  
おかげで、今回イタリアに行ってドン・ボスコのことを深く学ぶうちに、日曜学校で子どもたちと一緒に遊んで  
いる意味を感じることができます。

この一体感を味わつて終わりにするのではなく、またこの感覚を味わうことができるよう  
に、自分にできること、巡礼の参加者としてできることを考えていきたいです。



### 12日 たくさんの出会い。

この日のゲストはサレジアン・シスターズのイヴォンヌ総長。イタリアはじめオーストリア、メキシコ、ポルトガル、韓国などたくさんの仲間と交流、写真も撮りまくり！夜のSYM Partyでは浴衣が大好評でした。



### 13日 総長と記念写真！

午前中の学びとミサ後、サレジオ会のフェルナンデス総長との記念撮影に成功！サインももらっちゃいました♪ 午後はドン・ボスコの部屋(カメレッテ)を巡礼。夜にはトリノ市街も散策しました。



### 21日 感謝のうちに、帰国！

山野内管区長がお出迎え！本当にたくさんの方に支えられた巡礼でした。参加者のみんな、日本でお祈りくださった方、イタリアでお世話になった方、見守ってくださいました神様、ドン・ボスコに感謝！



### 11日 これが世界大会……！

午前中はこの壮大な会場で5千人の若者とテーマを深めミサにあづかります。午後はトリノを巡礼。この日はドン・ボスコとバルトロメオ・ガレッリが出会ったアッシジの聖フランシスコ聖堂に行きました。



### 14日 トリノを満喫。

ヴァルドッコ地下・聖ペトロ聖堂でゆるしの秘跡を受け、扶助者聖マリア大聖堂にてミサにあづかりました！午後はトリノの中心部に繰り出し、双子教会やドゥオーモを巡り、お買い物も楽しめました♪



### 20日 あっという間の最終日。

サクロ・クオーレ大聖堂と資料館にてドン・ボスコの部屋や聖遺物を見学。空港に向かうバスの中と、経由したドバイ空港でも分かち合いをして、夢のような日々を振り返りながら帰路につきました。



### 10日 イタリア、到着。

チマッティ神父ゆかりのヴァルサリチエ学院の体育館で、南アフリカ・タイ・フィリピンの若者と1週間の寝袋生活がスタート。何がすごいって、いびきが……（笑）揃いのリュックも配られ、気分は上々！



### 15日 いざ、コッレへ！

バスでカステルヌオーヴォへ移動し、ドン・ボスコが受洗した教会などを巡礼。そして雨の中、ドン・ボスコ生誕の地＝コッレ・ドン・ボスコへと5km歩きました！雨のため、野宿の予定が急遽室内で寝泊。



### 19日 念願の教皇謁見！

あいにくの雨でしたが、無事パウロ6世ホールで教皇フランシスコに初対面！サン・ピエトロ大聖堂ではラテン語のミサにあづかりました。夕食後はスペイン広場やトレヴィの泉、ジェラートを堪能♪



### 9日 では、いってきます！

夜10時、期待と不安でいっぱいの参加者たちが羽田空港に集合。たくさんの人間に見送られて真夜中0時半、日本を出発！ドバイ経由で約22時間かけてイタリアへ。現地で3人の仲間と合流しました。



### 16日 ドン・ボスコ、200歳おめでとう!!

日付が変わる真夜中、フェルナンデス総長たってのお誘いで広場に出てみると……雨にもかかわらずこの盛り上がり！世界中の仲間と歴史的瞬間を祝いました。翌朝はどんよりとした空から、気づけば晴天に。神様の祝福を感じる感動的な閉会ミサとなりました。終わりには教皇フランシスコとの生中継というビッグサプライズも！これ以上ないほどの恵みを受けた1日でした。



### 18日 アッシジからローマへ。

サン・フランチェスコ大聖堂、サンタ・キアラ聖堂、サン・ルッフィーノ教会を巡礼。美しきアッシジに別れを告げ、夕方ローマに到着。市街を散策し、夜のラテラノ大聖堂やコロッセオを楽しみました。

**12日間の  
僕らの旅！CDB**

Our journey of 12 days!  
2015.8.9 ~ 8.21

Turin Italy Assisi Rome

SYM DON BOSCO 2015  
in トリノ + アッシジ + ローマ



### 17日 さらば、トリノ。

早朝、お世話になったヴァルサリチエ学院を後に、バスで6時間かけて中世の街、アッシジへ。サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会と旧市街を巡り、夜は誕生日を迎えたメンバーのお祝いをしました！

8月16日、大会最終日の閉会ミサの様子。  
1万人近くの若者たちで埋め尽くされたコッレ・ドン・ボスコ前。  
前日からの雨雲は去り、祝福するかのように晴れ間がのぞく。

# SYMの衝撃

## ～イタリア巡礼の灯～

ドン・ボスコが生を受け、学び、青少年と共に過ごし、最期を遂げた場所——イタリア・トリノ。そこで目にした光景、感じた空気、出会った人びとに、参加者たちは感動の連続だったという。とりわけ彼らの心に強く響いた、4つの衝撃の出来事に迫る！

4

「参加できたことが  
“奇跡”なんだ」

激動の地・シリアの青年たちの思い  
  
内戦や空爆、難民問題で揺れるシリアから命をかけてやってきた青年たちと出会った。彼らは「イスラムの武装勢力と100mしか離れていないところに住んでいる」「国外に出て、巡礼に参加できただけでも“奇跡”なんだ」と語りながらも、不思議とこれからのこととはさほど心配していなかった。「もちろん、いろいろな覚悟はしている。でも、神様のご計画のうちにここへ来ているという思いがある——」。

3

そんなところに  
座っているの!?

フェルナンデス総長との出会い  
  
会場に入ると、若者に混ざって一般席に座り、参加者たちと握手をするフェルナンデス総長の姿が！ その親しげなサレジオ会らしい雰囲気と、総長の大きな手から伝わる優しさに心を奪われた♡ 大会中は何度も総長に会うことができ、13日のミサの終わりには一緒に記念撮影も。コッレ・ドン・ボスコには、ジャージ姿で登場！ たくさんの若者たちに声をかけ、笑顔をみせてくれた。

2

壇上に若者しか  
いない！？

SYM現地スタッフの  
主体性

壇上での司会進行やスピーチ、オーケストラ、コーラス、劇や踊りなどのさまざまなパフォーマンス。大会のあらゆる場面で活躍を果たしていたのは、すべてイタリアをはじめとする同世代の若いスタッフたち！ 大人たちはサポート役に回り、SYMを支えていたのだ。彼らの懸命な姿に触発され、心動かされる日本の参加者たち……イタリアには負けてられない！と、決意を新たにしたのであった。

1

よく踊り、よく歌い、  
よく祈る！

世界のサレジオ青年の  
“喜び”の分かち合い方

会場に入る前から至るところで踊り、大声で歌い、「サレジアーノ バッティエーレ マー！」（サレジオ家族なら手を叩こう）と、拍手やコールを響かせていた世界の若者たち。場内はさらに熱気を帯びて、まさにライブ会場のようだった！ しかし、ミサになると空気は一変。静寂に包まれる中、5千人が一体となって祈りをささげ、メリハリをもって喜びを分かち合う世界のサレジオ青年の姿がそこについた。





始動!  
～新たな出発～



あなたも  
**SYM JAPAN**に  
参加してみませんか！

**SYM JAPAN**とは、日本においてドン・ボスコの呼びかけに応え、若者らしい生き生きとした活動を目指す青年の集まり。小教区の活動、学校関係の活動、国際ボランティア活動、靈性センターでの活動など、それぞれの活動を大切にしながら、次の**3つの目的**をもって互いのつながりを生かしていくムーブメントです。

1. 国籍、文化を超えて交流の輪を広げる
2. 共に楽しみ、祈り、喜びを分かち合う
3. ドン・ボスコの価値観を大切にし、それぞれの道を見つける

各グループの枠を超えた「SYMの集い」やその他の活動があり、この運動に興味のある18～30歳の青年（グループ）は誰でもメンバーになることができます。

**SYM JAPANへの参加に興味のある青年（グループ）はぜひご一報を！**

公式LINE@アカウント



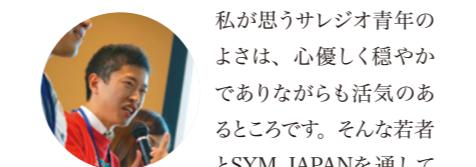
ID:@pzs3581nで検索、  
友達に追加してね！



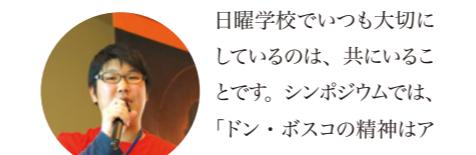
SYM事務局 [symjapan@salesians.jp](mailto:symjapan@salesians.jp)



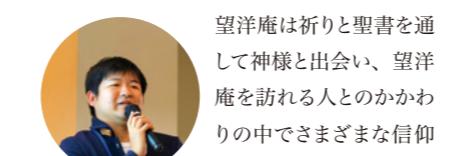
# 今、僕たちに できること。



私が思うサレジオ青年のよさは、心優しく穏やかでありながらも活気のあるところです。そんな若者とSYM JAPANを通してかかわることで、「サレジオでよかったなあ」「カトリックでよかったなあ」と感じ、それぞれの使命を見つけてもらえたと思います。とはいって、SYM JAPANはまだ手探り状態です。だからこそ、これから形にしていくワクワク感があります。このワクワク感もまた、多くの人と分かち合っていけたらと思います。（SYMスタッフ・DBVG・小教区 武井利徳さん）



日曜学校でいつも大切にしているのは、共にいることです。シンポジウムでは、「ドン・ボスコの精神はアシスティンツアにある」という思いで活動している他グループの青年と話ができる、私も「もっと共にいて愛を伝えよう」と心を新たにすることができます。どんなところにも愛に飢えている子どもはいます。SYM JAPANを通して多くの人が出会い、語り、遊び、学び、食事をして……共にいてたくさんの愛を感じてもらえたからだと思います。（SYMスタッフ・DBVG・小教区 入山太郎さん）



望洋庵は祈りと聖書を通して神様と出会い、望洋庵を訪れる人とのかかわりの中でさまざまな信仰や生き方と出会い、青年が豊かな人生を歩む一助になるよう活動を続けています。訪れる人と一対一の誠実なかわりができるように、人と人との中心に神様をおいた活動ができるように、「何のために」望洋庵にいるのかを日々分かち合いながら活動を続けていきます。どうか神様が私たちの歩む道を照らしてくださるようにお祈りください。（望洋庵運営スタッフ 鈴木和人さん）

サレジオ青年巡礼に参加した青年たちは、帰国後、自らがスタッフとなり、SYM JAPANを発足。イタリアで受けた多くの恵みがきっかけとなり、日本のサレジオ青年による活動が始まった。そして2015年11月23日、東京カテドラルで開催されたドン・ボスコ生誕200周年記念閉幕イベントでのシンポジウム「SYM青年の主張！」で、SYM JAPANの本格的なスタートを公に宣言。数人のスタッフとSYM JAPANを構成する各グループの代表者が壇上にあがり、それぞれの活動やこれまでの体験、そしてこれからを、500人を超える来場者と分かち合った。シンポジウム終了後、登壇者からコメントが寄せられた。サレジオ青年の中心として活動する彼らの熱い想いを紹介しよう。



VIDESは、苦しみの中でも愛を訴えたドン・ボスコを模範とし、国際的に活動するボランティアグループです。私はそんなドン・ボスコの姿から、「羊のために命を捨てる」イエスの姿を感じています。ドン・ボスコは晩年の苦しみの中で、Studia di fatti amare=「愛されるように努めなさい」と呼びかけました。私たち青年は、今こそこの言葉を思い起こし、若い活力を大いに使って、国境を越え、彼の呼びかけに答える使命を果たしてしましょう。（VIDES 山田真人さん）



碑文谷教会の青少年活動では、①アシスタンツア ②学校や家庭では体験できない場をつくることを大切にしています。

日本において、若者が集まって共に祈るなど、教会以外ではなかなかできないことだからです。教会やその活動は、しがらみを感じることなく人付き合いができる得難い場であると考えます。私自身多くの恵みを受けた青少年活動が、若者にとって「帰ってきた場所」となるように、これからもサポートしていきたいです。（DBVG・小教区 李承塲さん）



巡礼中、世界の仲間と共に歌って踊って喜びを分かち合いながら、「日本の若者にも、こんなふうに心の底から信仰の喜びを感じてもらいたら……」と何度も思いました。帰国後は、早く全国各地に潜む日本サレジオ青年を目覚めさせたい！と、そればかりを考えています。今は東京近辺での活動が主ですが、これからは静岡や京都、大阪、大分、宮崎など、すべての地域の青年とつながって、SYM JAPANを盛り上げていけたらと思っています。（SYMスタッフ 遠藤ゆりえさん）

# ドン・ボスコ生誕200周年ニュース

1815 2015

2015年8月16日のドン・ボスコ生誕200周年を祝って、日本各地で記念イベントが行われ、11月23日には東京カテドラルで盛大な閉幕イベント&ミサを開催。Facebook「ドン・ボスコの風」でお伝えした中から紹介します。  
(誌面の都合で紹介できなかった皆さん、ゴメンなさい!)

文・写真 ● 各地より提供



▲ドン・ボスコ生誕200周年実行委員会（東京四谷・6月）／2013年からサレジオ家族が集まって会議を重ねてきました。ファミリーの絆も深まってきたね！



▲サンシティ聖母幼稚園（東京板橋・7月）／子どもたちと「ひまわり」のステキな動画を届けていただきました！ありがとうございます☆

◆聖ヨゼフ寮（大分中津・8月16日）／ドン・ボスコへの誕生日プレゼントとして、シンボルフラワーであるひまわりの種蒔きセレモニーをしました。



▲カトリック碑文谷教会（東京目黒・8月16日）／ドン・ボスコ生誕200周年記念ミサが盛大にささげられました。この日配布された碑文谷教会の教会報「FONS」DB200記念特別号は、ドン・ボスコの生涯・教育・靈性がよくまとめられていて、碑文谷教会広報委員会の皆さんの力作です！



▲サレジアニ・コオペラトリー（東京調布・8月16日）／調布教会での主日ミサの後、神学院で岡神父様と共に祈りと聖歌によるお誕生会を開催。共同祈願はドン・ボスコへの想いや感謝をカードに書いて読み上げ、俳句を詠んだ人も。先立つ1週間前には3日間の祈り「この母にして、この子あり」を神学生と合同で毎日行いました。



SYM  
JAPAN  
始動!  
～新たな出発～



You are called

## 「若者と共に生きる」とは？

今の世の中で、ドン・ボスコのように「若者と共に生きる」とは、どういうことなのだろうか？ ドン・ボスコの生き方にならい、今、多くの人びと・若者を導く3人の呼びかけを、しっかりと胸に刻みたい。

「貧しい若者たちのために、リスクのある決断をしてください」



教皇フランシスコ

*Pope Francis*

私はサレジオ会の学校で、聖母マリアを愛すること、美しいこと、働くことを学びました。ドン・ボスコはスボーツによって、共に働くことの美しさへ導きました。教育によって、働く技術を教えました。そして、すべてを与える神の恵みをとおして、若者を喜びに導きました。ドン・ボスコは恐れませんでした。街に出て、通りを見てください。若者たちのために、リスクのある決断をしてください。

（2015年6月21日、イタリア・トリノ扶助者聖マリア大聖堂にて）



▲カトリック水主町教会青年会の皆さん（長崎大村・8月）／水主町教会青年会は10人弱と少ない人数ですが、ドン・ボスコの生き方にならい、青年の輪を広げようと「200人で写真を残そう!!」というチャレンジに挑戦。たくさんの笑顔に出会えました♪さらに青年の輪が広がることを願っています。



▲イエスのカリタス修道女会管区本部（東京杉並・8月12日）／SYMイタリア巡礼中の青年たちへ、中庭のひまわりと一緒にエールを送りまーす！



▲カリタスの園（宮崎・8月）／佐世保銘菓「九十九島せんべい」のドン・ボスコ200周年バージョン！

ドン・ボスコは今日ここにいる若者の皆さんに、こう言うでしょう。「私たちは皆さんを信じている。自分の人生の真の主役であります。誠実な市民、善良なキリスト者になります。この現代世界と向き合いまして、正直に、人には公正で、誠実に働きなさい。苦しむ人、恵まれない人、自らを守るすべのない人にあわれみ深い心をもつよう」。世界中の何千何百万もの若者たちが、皆さんを必要としています。与えること、自分自身を贈り物にすることが、サレジオの若者の生き方です。

（2015年8月13日、SYM Don Bosco 2015 イタリア・トリノにて）

2015年のサレジオ家族年間目標（ストレンナ）「ドン・ボスコのように、若者と共に、若者のために」は、私たちが若者と共に生活し、計画を立て、働くという挑戦です。私たちの日常にもっと若者を受け入れましょう。若者たちに熱心に耳を傾け、彼らのニーズや疑問を私たちの共同体の祈りに加え、若者のリーダーを共同体の食事、祈り、分かち合いに招きましょう。生活を若者に向けて開くなら、若者の生活の中に神を見いだし、サレジオのミッションにおける若者の役割の重要性を、よりいつそう確信するようになるでしょう。

（2015年9月1日、EAOボナンティ）

「あなた自身を贈り物にしよう」



サレジオ会総長  
アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父

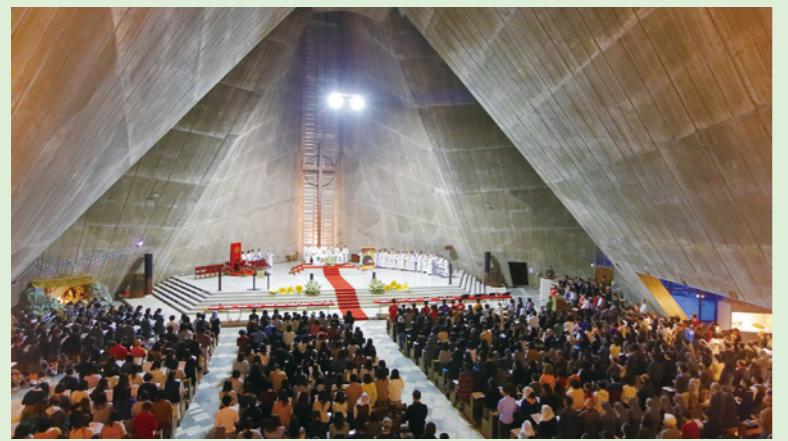
*Fr. Ángel Fernández Artimo*

「収穫の時…若者と共に！」



サレジオ会東アジア・オセニア地域顧問  
ヴァツラフ・クレメンテ神父

*Fr. Václav Klement*



1500人以上の感謝と賛美の祈り…



パンフレットと記念品が配されました



ドン・ボスコくんと記念撮影!



星美短大生作の顔出しパネルで記念撮影



教会有志やサレジオ家族による食事提供



各団体の販売コーナー、ドン・ボスコ市場



星美短大生によるドン・ボスコ紙芝居



VIDES青年有志によるドン・ボスコの劇



ぬり絵コーナーも子どもたちで盛況



Fr.Mickeyのゴスペル・マジックショー



SYM サレジオ青年たちのトークが熱い!



星美学園中高ダンス部の演舞



星美&目黒星美の合同聖歌隊と吹奏楽



サレジオ中学校のハンドベル演奏



旗や記念シンボル「ひまわり」も奉納



ドン・ボスコの言葉を胸に刻んで祈る



喜びの種をまき続けましょう!

## ドン・ボスコ生誕200周年 閉幕イベント&ミサ

(東京カテドラル・11月23日)／関東近郊だけでなく日本各地からサレジオ家族どん・ボスコを知る1500人以上が集合。各団体による温かい食べ物の提供や紙芝居、劇、演奏、マジックなどのイベントで大にぎわい。とくに若者たちが大活躍してくれました。閉幕ミサは岡田大司教主式で行われ、駐日教皇大使のジョセフ・チエノットウ大司教、サレジオ会東アジア・オセアニア地域顧問のヴァツラフ・クレメンテ神父ほか司祭約40人が共同司式。サレジオ家族関係各学校の合唱部、聖歌隊、吹奏楽、ダンス、ハンドベル、イエスのカリタス修道女会スマーリクワイアによる聖歌隊で盛大に捧げられました。



2015  
11/23  
@東京カテドラル

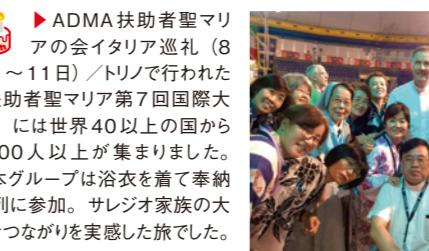


▲目黒星美学園小学校（東京・10月）／「ドン・ボスコといっしょにチャレンジ200！」と題し、子どもたちが学校や日常生活で200項目のよい事にチャレンジ。10月は毎朝300人の児童がロザリオの祈りを聖母マリアにささげました。

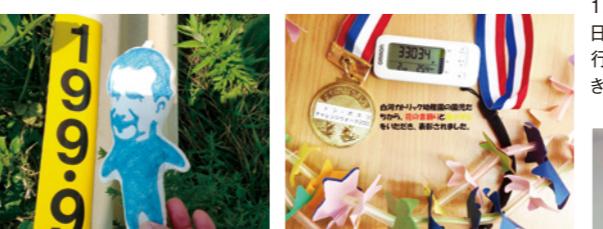


▲サレジアン・シスターズ（東京赤羽・8月16日）／ドン・ボスコの200回目の誕生日を世界中のみんなでお祝いしよう！ということで、朝からバースデーケーキ作りに励み、祈りのひと時を過ごしました。

▲サレジオ教職員巡礼（イタリア・8月19～29日）／ドン・ボスコが少年時代を過ごした家「カゼッタ」前で。教育者ドン・ボスコの生き様に触れ、参加した教職員の皆さん的心は燃えています！



▲ドン・ボスコ音頭（8月）／前田智晶シスター作の「カリタス音頭」をもとに「ドン・ボスコ音頭」が完成！音源と振り付け見本をYouTubeで検索して、ぜひ一緒に踊りましょう♪



▲ドン・ボスコくん200kmチャレンジウォーク（4～8月）／200周年ということで、ドン・ボスコくん・青年Fくん・サレジオ会のS神父が、日本橋から福島県の白河の関まで200kmを5回に分けて完歩！ 照りつける日差しと粉塵で全身真っ黒、足を棒にしながらも、田園風景と宇都宮餃子に癒され、ゴールでは白河カトリック幼稚園の子どもたちとカリタス会のシスターから金メダルと花の首飾りが授与され感激！ 神様のこと、人生のことを思いながら、ドン・ボスコくんと共に歩いた200kmでした。



▲カトリック浜松教会（静岡浜松・8月）／ドン・ボスコ生誕200周年記念ミサに聖堂は400人以上の皆さんの熱気に包まれ、青年たちによるドン・ボスコの劇など盛りだくさんのイベントを楽しみました。

ム」は幸い被害を免れている。  
インド・ニューデリー宣教事務局のジョージ・メナムバーンビル神父は「王政が廃止され、民主主義によつて統治し、少数派を尊重しつつ民意を築くなど、ネパールにどうぞ祈るばかり」と語る。キリスト者は人口の0.5%で教会は宗教組織として登録もできないが、ドン・ボスコ救援チームのジジヨ・ジョン神父は若い建設作業員の技術研修など、復興支援に取り組んでいる。



World Salesian Family NEWS

2015年4月の大震災後、ネパールでは政治や宗教の対立が続き、復興支援組織が円滑に機能できず復興が遅れている。9月によく発布された新憲法は、ネパールを非宗教的連邦国家と定め国民の大多数に歓迎されている一方、一部の国粹主義グループによる死傷者がいるなどの抗議行動や、教会の焼き討ち事件など緊張が続いている。支援が行き届かない山間部被災地への救援活動を続けるサレジオ会の「ドン・ボスコ救援チーム」翻訳開始など、活動の芽生えの時期である。

### ネット上のいじめと闘う若者たち



青年や教員がネット上のいじめ問題について学んだ

2015年10月、サレジオ会はN-ICEFF国連児童基金の児童保護ネットワークや他の児童保護活動団体と協働し、ネット上のいじめ問題を取り組む会議をセブ市で開催。200人の青年リーダーと100校から100人の教員が参加した。ドン・ボスコ養成センターで司牧コミニケーションを学ぶ学生や、サレジオ会フリリピン南管区の青少年司牧委員会、SYMサレジオ青年運動、広報部門が会議の成功を支えた。会議のテーマは「Ctrl-Shift, Del: サイバー・ティーン、責任あるリーダーとして」。キーボーディのコマンドを用いて「ものの見方をシフトし、生活をコントロール、メディアのネガティブなものを削除する」とを学ぶ」というねらいだ。参加した若者たちはネット上のいじめに反対する宣言文を起草、署名した。「ネット上のいじめは非

### テロリスト集団の脅威のなかで

#### ナイジェリア

2015年11月、ナイジェリア北西のコソタ「ラにサレジオ会の新しい学校が開校した。広大な砂漠地帯の非常に貧しい地域で、子どもたちには教育の機会がなく、イスラム原理主義グループが支配している。サレジオ会は1982年に

け入れ、ベトナム、タイ、カンボジアでの養成や、ミャンマー人宣教師の派遣など連携交流に努めている。ミヤキナの同窓会の発足や、マンダレーのドン・ボスコパン工房の開所、サレジオ会文書のビルマ語翻訳開始など、活動の芽生えの時期である。

#### フィリピン

困難に直面する地震被災地の復興  
2015年4月の大震災後、ネパールでは政治や宗教の対立が続きた、復興支援組織が円滑に機能できず復興が遅れている。9月によく発布された新憲法は、ネパールを非宗教的連邦国家と定め国民の大多数に歓迎されている一方、一部の国粹主義グループによる死傷者がいるなどの抗議行動や、教会の焼き討ち事件など緊張が続いている。支援が行き届かない山間部被災地への救援活動を続けるサレジオ会の「ドン・ボスコ救援チーム」翻訳開始など、活動の芽生えの時期である。

#### ネパール



ネパール地震被災地は今も困難な状況が続く

### ネパール地震被災者救援活動支援のためのご寄付のお願い

下記の振込口座まで（または本誌とじ込みの振込用紙にて）ご寄付をお願い申し上げます。  
郵便振替  
口座番号 00100-7-412947  
加入者名 「ドン・ボスコの風」編集事務局  
※通信欄のご寄付意向にチェックを入れて、ご寄付金額を明記ください。

ム」は幸い被害を免れている。  
インド・ニューデリー宣教事務局のジョージ・メナムバーンビル神父は「王政が廃止され、民主主義によつて統治し、少数派を尊重しつつ民意を築くなど、ネパールにどうぞ祈るばかり」と語る。キリスト者は人口の0.5%で教会は宗教組織として登録もできないが、ドン・ボスコ救援チームのジジヨ・ジョン神父は若い建設作業員の技術研修など、復興支援に取り組んでいる。

民意を築くなど、ネパールにどうぞ祈るばかり」と語る。キリスト者は人口の0.5%で教会は宗教組織として登録もできないが、ドン・ボスコ救援チームのジジヨ・ジョン神父は若い建設作業員の技術研修など、復興支援に取り組んでいる。

### エボラとの闘いのヒーロー

#### ナイジェリア



エボラ孤児のケアは続けられる

ナナイジエリアに入り、技術訓練校やユースセンター、教会を開設してきたが、2008年に厳しい辺境の地である北部でも教育司牧活動を行つてほしいとの要請を受けた。2014年、3人のナイジエリア南部出身のサレジオ会員が派遣され、村々を訪れ、人びとの関係を築いている。イスラム教徒の政治的指導者である地元の首長は、「ドン・ボスコのことや技術訓練校のこと」を聞き、「まさに私たちが必要とする許可を与えた。

1939年サレジオ会はミャンマーでの活動を開始したが、政治情勢の影響を受け、過去50年間にドン・ボスコ誕生200周年に力を抜けられ、今ミャンマー準管区は、サレジオ世界や全教会との交わりを回復しつつある。4つの養成支部と7つの活動拠点があり、会員数や事業も徐々に拡大。貧しく危険にさらされた若者のため、各地に小規模の職業訓練センターを開設し、7つの活動拠点があり、会員数や事業も徐々に拡大。貧しく危険に



マンダレーのドン・ボスコパン工房のパン

マードの活動を開始したが、政治情勢の影響を受け、過去50年間にドン・ボスコ誕生200周年に力を抜けられ、今ミャンマー準管区は、サレジオ世界や全教会との交わりを回復しつつある。4つの養成支部と7つの活動拠点があり、会員数や事業も徐々に拡大。貧しく危険に

流れたエボラ撲滅ソングはSYMの歌でした。」

### 50年間の孤立を耐え、交わり回復の時

#### ミャンマー

西アフリカ英語圏管区長ホルヘ・クリサフリ神父は、希望を持続け、自由を建設する歩みに参加しなければならないと語る。「ナイジエリアは大きな可能性を秘めた人目の覚ます奇跡は起こせませぬ。ナイジエリアの人びとの一致、様々なグループやNGOが対話し、直そうとしている。インドで無原罪のキリスト者の抜け聖マリア・カティキヌ姉妹会（SMI・サレジオ家庭の一員）は、コルカタの売春宿への警察の強制捜査に同行し、女性や少女たちを犯罪者の手から救い出している。サレジオ会とサレジアン・シスターズの声は国連機関にも届けられ、他の団体と協働する関係を築く努力が行われている。

女性が犠牲となる暴力の悪循環を断つため、サレジオ家族のさまざまなグループが女性の教育、職業訓練、権利向上、女性リーダーの養成など、世界規模の働きを展開している。

連載インタビュー

# DBの 教え子たち

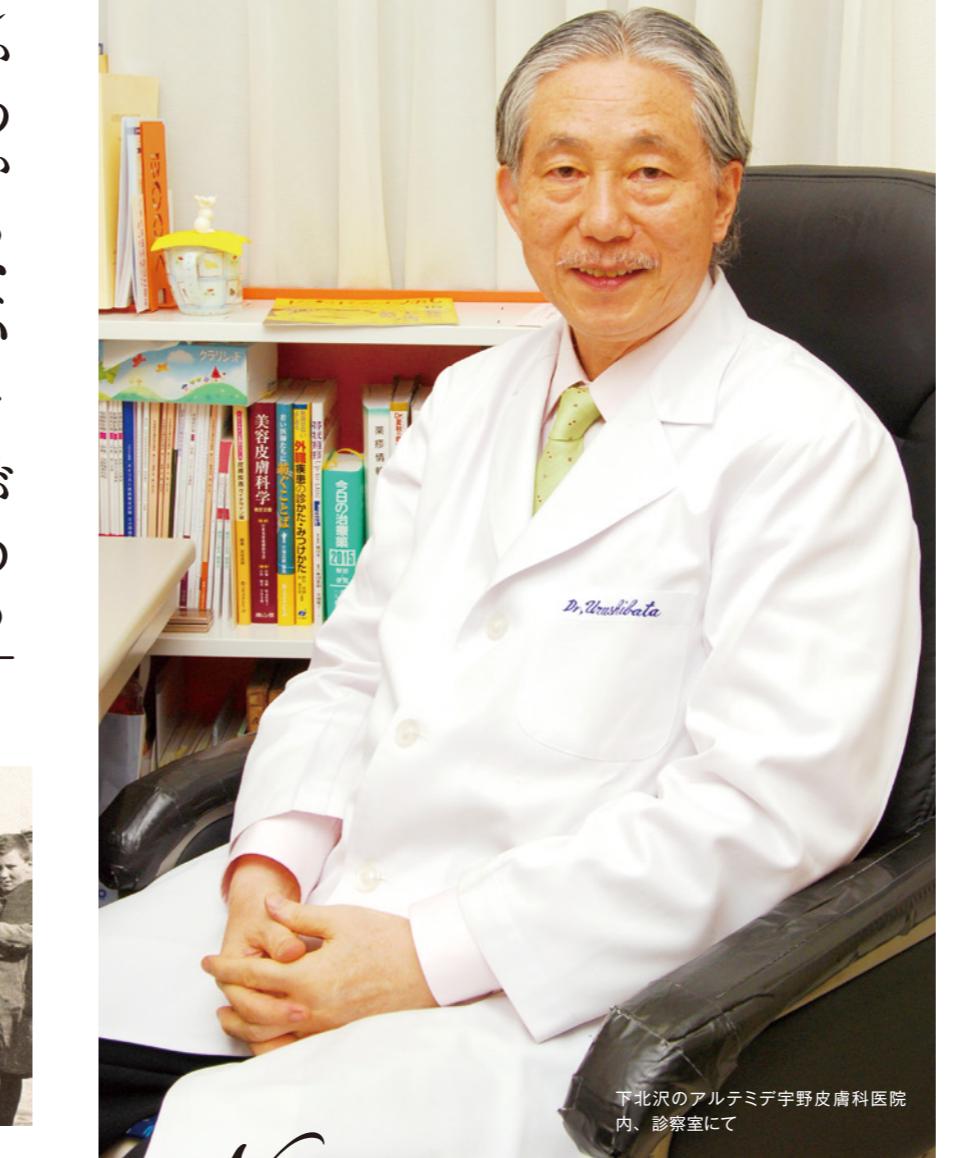
東京・下北沢の小さな医院で、サレジオ会修道士の精神に倣つて診療を行う皮膚科医がいる。身体的な治療だけでなく、患者の精神的ケアをも目指す「街のお医者さん」だ。彼はドン・ボスコの教え子としてどのような道を歩んできたのか？ 東邦大学客員教授、また医療法人社団アルテミデ理事長・宇野皮膚科医院院長を務める漆畠修さんにお話を聞いた。



両親が私に勉強させようというのが一番にあつたと思います。当時は幼稚園の数も少なく、幼稚園に通うことが一般的ではありませんでした。そんな中、家の近くにサレジオの幼稚園ができたので、2年半幼稚園に、続けて付属の小学校に通いました。その後、家の近くにサレジオの幼稚園ができたので、2年半幼稚園に、続けて付属の小学校に通いました。

私は今でも、幼稚園・小学校の頃の印象が強く残っています。比較的活発だったこともあって、遊び仲間の子どもたちと線路脇の枯れ草園に、続けて付属の小学校に通いました。そんな中、家の近くにサレジオの幼稚園ができたので、2年半幼稚園に、続けて付属の小学校に通いました。

当時の思い出として今でも覚えてるのは、聖母行列です。今は教会の中だけですが、昔はマリア像を三輪トラックの後ろに積んで、学校から駅まで往復したんですよ。私は十字軍のコスチュームを着て参加していた記憶があります。



下北沢のアルテミデ宇野皮膚科医院内、診察室にて

No.20 医療法人社団アルテミデ宇野皮膚科医院院長  
うるし ばた おさむ 漆畠 修 さん

★サレジオ歴★ 静岡サレジオ幼稚園・小学校  
(旧静岡星美幼稚園・小学校)

プロフィール

1948年静岡県清水市（現静岡市清水区）生まれ。1960年静岡星美小学校卒業。1977年東邦大学医学部大学院修了。医学博士。東邦大学講師、同准教授、東邦大学大橋病院皮膚科部長、美容医学センター長、栄養部長、院長補佐を経て現職。

## 「神様しかわからない」とある

私がサレジオでよかつたなあと思うのは、「いつでも神様は見てらっしゃいますよ」という教育です。辛いことがあると、「それは神様が、次のステップのために今こういうことを考えてやっているんですよ」ということを、シスターがわかりやすく教えてくれました。自分がガクッと落ち込まないことは大切ですし、宗教はいわゆる堅苦しいものではなく、そのような心を持ちなさい」といふことは、人生のいろんなところで役に立ちました。

### 医師になつたきっかけは？

私は仙台の東北大工学部で都市計画など建築に関する勉強をやろうと、高校の時に決めていたんです。そんな中、私の叔父が池袋に東京初の皮膚科専門院を開業しました。それで、時々叔父のもとへ遊びに行くと、不思議と東京の生活に惹かれてしまうようになりました。

そのことを叔父に打ち明けると、「医学部に入つたらどうだ」と言つてきました。初めてはとまどいましたが、結局医学部を目指すことにしました。そして東邦大学に入り、医学部の頃は小児科の勉強をしていました。安田先生という方に、「皮膚科においてよ」との誘いを受けたんで

す。お世話になった先生なので、恩返しをしようと思い、大学に残つて皮膚科へ入局しました。医学部は、授業、研究、診察、全部を行います。多忙を極める毎日でした。

そんな折に、皮膚科医をしていた

叔父が急に体調を崩してしまったんです。そういうわけで、叔父の跡を繼ぐ形で新たに皮膚科をオープンし、今ここで診療をしています。こうして今までの道を振り返ると、神様が「やりなさい」と、全部計画しているだけのものなのだろうと思いません。

皮膚科であつても、「心が辛くてこ

とにやつてきた」という患者様はたくさんいらっしゃいます。そういう方の心のケアもできるように、優しい語り口で、余裕があればいろんなお話を聞いて、新しく正しい治療をしようと心がけています。これはなかなか難しいことですが、やはり心が癒され安らぐだけで治るものもあると思います。

福者アルテミデ・ザッティ修道士（写真左）  
1880年イタリア生まれ。16歳でアルゼンチンに渡り、1951年に生涯を終えるまで、心の施しを与える修道士ばかりでなく、看護師の資格を持ち、医療を通して人びとの心身を癒す活動を行ってきました。誠実さとユーモラスな人柄でも知られる。



福者アルテミデ・ザッティ修道士（写真左）  
1880年イタリア生まれ。16歳でアルゼンチンに渡り、1951年に生涯を終えるまで、心の施しを与える修道士ばかりでなく、看護師の資格を持ち、医療を通して人びとの心身を癒す活動を行ってきました。誠実さとユーモラスな人柄でも知られる。



アルテミデ宇野皮膚科医院を新たにオープンしたときに、山野内神父より頂いた福者アルテミデ・ザッティの聖遺物

を受験する際に、本人が「マリア様においでよ」との誘いを受けたんで、安田先生という方に、「皮膚科をも目指す「街のお医者さん」だ。彼はドン・ボスコの教え子としてどのような道を歩んできたのか？ 東邦大学客員教授、また医療法人社団アルテミデ理事長・宇野皮膚科医院院長を務める漆畠修さんにお話を聞いた。

両親が私に勉強させようというのが一番にあつたと思います。当時は幼稚園の数も少なく、幼稚園に通うことが一般的ではありませんでした。そんな中、家の近くにサレジオの幼稚園ができたので、2年半幼稚園に、続けて付属の小学校に通いました。

私は今でも、幼稚園・小学校の頃の印象が強く残っています。比較的活発だったこともあって、遊び仲間の子どもたちと線路脇の枯れ草園に、続けて付属の小学校に通いました。

当時の思い出として今でも覚えてるのは、聖母行列です。今は教会の中だけですが、昔はマリア像を三輪トラックの後ろに積んで、学校から駅まで往復したんですよ。私は十字軍のコスチュームを着て参加していた記憶があります。

に火を着けたりと、いろいろいたずらや悪さをしていました。そういったことをした後に、木造の聖堂に行ってマリア様の前で手を合わせていました。聖堂に行くと、子どもながらに「神聖な場所」という感覚がありました。マリア様の存在は、子どもながらに大きかったです。



東京・下北沢の小さな医院で、サレジオ会修道士の精神に倣つて診療を行う皮膚科医がいる。身体的な治療だけでなく、患者の精神的ケアをも目指す「街のお医者さん」だ。彼はドン・ボスコの教え子としてどのような道を歩んできたのか？ 東邦大学客員教授、また医療法人社団アルテミデ理事長・宇野皮膚科医院院長を務める漆畠修さんにお話を聞いた。

両親が私に勉強させようというのが一番にあつたと思います。当時は幼稚園の数も少なく、幼稚園に通うことが一般的ではありませんでした。そんな中、家の近くにサレジオの幼稚園ができたので、2年半幼稚園に、続けて付属の小学校に通いました。

当時の思い出として今でも覚えてるのは、聖母行列です。今は教会の中だけですが、昔はマリア像を三輪トラックの後ろに積んで、学校から駅まで往復したんですよ。私は十字軍のコスチュームを着て参加していた記憶があります。



水の中で笑顔！ サンタマリアスイミングスクール

中高の朝学習の時間は落ち着いた一日を始める鍵

小学校児童「ノートづくりは人づくり」

休み時間は子どもと共に。小学校の児童と先生

お友達と一緒に、体育を楽しむ園児

# 心をつないで 共に生きよう

大阪府大阪市中央区玉造

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・サンタマリアスイミングスクール



1929年12月、「ドン・ボスコの風」を開設されたのは1950年のこと。大阪城のすぐ南に位置する現在の城星学園の土地は、当時まだ戦後の焼け野原であり、そこに残っていた小さな蔵が最初の修道院でした。その隣にある玉造教会が経営するガラシア幼稚園の運営を委嘱され、翌年2月には「城星学園幼稚園」と改称して、シスターたちの正式な教育使命の場がスタートしました。

近隣には、サレジオ会の大坂星光学院とマリア会の大坂明星学園があり、城星学園が加わって、大阪城を背景に、聖母マリアのご保護をいただく3つのカトリック学校が揃いました。この3校は、現在も生徒会活動などを通して、カトリック学校として互いに交流しています。



**「誠実な人、よき社会人」の育成を目指す**

1953年、卒園児のうち16人が城星学園小学校の1期生として新しい制服に身を包み、この年「学校法人城星開幕式、保護者や同窓生と共に行われた城星フェスタ、そして、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で行った閉幕ミサなど、学園全体が集うことを最優先に企画したこの1年の行事を振り返ると、ドン・ボスコは、彼が最も大事にした「共に祝い、共に喜ぶ」家族的なスタイルの大切さを今一度思い起こさせてくれたように思います。

最後に、天国のドン・ボスコ、関西っ子の元気一杯の声を届けます。「ありがとうございます、ドン・ボスコ。大好きやでー！」

(文・写真／城星学園提供)

## 「共に生きよう 心をつないで」

「共に生きよう 心をつないで」。こ

れは創立50周年を迎えた2002年よ

り、学園の今、そしてこれからの姿を表

わすモットーです。この年、計り知れない

神の恵みと扶助者聖マリアのご保護のも

と、数多くの恩人、協力者によって支え

られた50年の歩みに感謝を捧げるととも

に、これからもドン・ボスコの心を受け継ぎ、

青少年の教育を通してイエスの福音の種

を蒔き続ける決意を新たにし、現在に至つ

ています。

幼稚園は、「あそび」を通してさまざま

が望まれたように、生徒それぞれがいただ



城星学園  
幼稚園・小学校・中学校・高等学校・  
サンタマリアスイミングスクール

大阪府大阪市中央区玉造 2-23-26  
www.josei.ed.jp



1959年3月29日、初誓願者たちと。前列左からチマッティ神父（院長）、ダルケマン神父（管区長）、モスカ神父（修練長）。



2012年9月、来日したバスクアール・チャーベス前総長と



ミカエル・モスカ  
Michele Moskwa

1915年ポーランドに生まれる。  
1937年サレジオ会に入会、初  
誓願宣立後、来日。1946  
年司祭叙階。47年～51  
年東京サレジオ学園に勤務。  
1951年～59年宮崎  
小神学校養成担当。59年  
～67年東京調布修練院  
修練長。その後、各修道  
院で聴罪司祭・チャプレンと  
して働く。

ちに選ばれました。同期のピサルスキー神父（2013年没）と一緒に日本に派遣されることになりました。当時私たちの日本についての知識は皆無に等しく、日本語の辞書もありませんでした。母は必ず心配するだろうから、修道女の姉に手紙を書いて母に伝えるよう言づけて出発しました。1か月の船旅を経て日本に到着したのは1937年11月22日でした。

**— 戦争前の大変な時代に来日されたのですね**

若かったから、そんなに難しく考えませんでした。チマッティ神父はじめ年輩の会員はもっと苦しんだと思います。

まず東京の杉並修道院で哲学

を3年間学びました。これはラテン語だったので苦労しませんでしたが、日本語の勉強は大変でした。宮崎での実地課程を終えて神学の勉強のために東京に戻ったとき戦争が始まりました。

特別高等警察に監視されながら勉学を続けましたが、1945年4月からは長野県の野尻湖畔に疎開しました。そこで生活はとてもひもじかったです。監視もされました。機械に詳しい私は近隣の人たちの時計を修理し、お礼にとお米をもらつていましたが、栄養失調と無理をして目に負担がかかったため、しばらく視力を失いました。

終戦後の1946年に司祭に叙階されました。そしてタシナリ神父の指導のもと、戦災孤児のための児童養護施設開設に携わりまし

た。東京都練馬区にあった旧陸軍成増飛行場の兵舎跡地に一次的に場所を借り受け、その1年後に東京都小平市に移転、それが現在の東京サレジオ学園です。学校も併設しましたが、先生が足りなかつたので何でも教えていました。国語も数学も。若かったからがんばれたと思いません。

**— 神父様は修練長も長く務めましたね**

全部で8年間務めましたが、実際にチマッティ神父の存在が大きかったです。チマッティ神父から、修練生をどのように見守り育てるか、また適性の判断についてよく相談し、助けられました。私は生前のピオ神父（ピエトロ・チーナの聖ピオ）

**— 生まれ故郷とご家族のことを教えてください**

ポーランドの南部、ザボルフ村というところで生まれました。1915年8月22日で、ドン・ボスコの誕生から100年と1週間です。家族は父、母、姉が4人そして兄と末っ子の私の8人家族でした。父も母も結婚相手を早くに亡くし、それぞれどちらにも娘1人がいた同士の再婚です。私はしばらく姉の2人が義理の姉だと知らないほど家族の仲は良かったです。

父は農夫で麦、果物、野菜などを何でも作っていました。3回ほどアメリカに出稼ぎをして、土地を買って増やしました。静かな人で信仰が篤く、家族を大事にしました。後に村長になって仕事が忙しくなりました。母も特別信仰が篤い人で私たちをよく育てました。

**— 召命、そして宣教師のきっかけは？**

姉たちが女子修道会に入ったので、私も9歳のときから自然に修道会に入りました。当時はポーランド領であったウクライナのダシャヴァーに紹介してくれたサレジオ会に入ることになりました。當時はポーランドとになりました。厳しかったけれど家族的でいいところでした。院長も修道士たちもイタリア・トリノのヴァルドッコ育ちで、ドン・ボスコの心を生きています。

修練期は、ワルシャワのチエルヴィンスクで過ごしました。72人の修練た。



1937年8月、既に修道女となっていた2人の姉と日本に出発する前に撮った写真



2015年8月22日、野尻湖にて。お祝いに駆けつけた山野内管区長、ポーランド人宣教師たちと。

# ミカエル・モスカ神父 100歳 おめでとうございます！

昨年8月22日に100歳の誕生日を迎えた  
ミカエル・モスカ神父。来日78年、司  
祭生活69年のモスカ師に話を聞いた。

(文/サレジオ会・編集部)

道会に入りたいと感じていましたが、まだ小さかったので父が許しませんでした。しばらく家で働いた後、ようやく父の許しを得て、姉たちが紹介してくれたサレジオ会に入るようになりました。当時はポーランドとになりました。厳しかったけれど家族的でいいところでした。院長も修道士たちもイタリア・トリノのヴァルドッコ育ちで、ドン・ボスコの心を生きています。

同期のうち48人が願書を出したの生きています。修練期の終わりごろ、ポーランドにリカルドー不總長がいらしゃって、私たちに「宣教師として派遣される会員を8人望んでいます」と言われました。私は幼いときから宣教師になりたいと思っていました。ところが私がその8人のう

生がいました。修練期の終わりごろ、ポーランドにリカルドー不總長がいました。しばらく家で働いた後、ようやく父の許しを得て、姉たちが紹介してくれたサレジオ会に入るようになりました。当時はポーランドとになりました。厳しかったけれど家族的でいいところでした。院長も修道士たちもイタリア・トリノのヴァルドッコ育ちで、ドン・ボスコの心を生きています。

あるサレジオ会の小神学校に入りました。領であつたウクライナのダシャヴァーに紹介してくれたサレジオ会の小神学校に入りました。厳しかったけれど家族的でいいところでした。院長も修道士たちもイタリア・トリノのヴァルドッコ育ちで、ドン・ボスコの心を生きています。

同期のうち48人が願書を出したの生きています。修練期の終わりごろ、ポーランドにリカルドー不總長がいらしゃって、私たちに「宣教師として派遣される会員を8人望んでいます」と言われました。私は幼いときから宣教師になりたいと思っていました。ところが私がその8人のう

# ありがとう！スマス神父 温厚な性格で 誰からも 慕われた司祭

その訃報に誰もが驚いた。やさしさに溢れた表情と控えめな性格で、誰からも慕われたスマス神父は、本当のジェントルマンだった。



2015年6月の管区共同体の集いにて。右はカバリエレ神父。

● 戦時中の混乱の中で  
リチャード・スマス師は1927年10月5日に、イギリス国籍の父エドワード・アルフレッド・スマス、母ひろ（旧姓・鈴木）の間に神戸で生まれた。父エドワードは当時有名な貿易商であり、また熱心なカトリック信徒として、戦前の無声映画「殉教血史」日本二十六聖人」の制作の資金援助をしたという。

母ひろが早くに亡くなり、スマス師は当時大分県の中津教会のそばに作られた小神学校入学の前身である寮に入る。小さい時からチマッティ神父を慕い、模範とする生活を始めた。しかし戦時中のため修道会でも修練期を行うゆとりが無く、入会を待機させられた。

戦後最初の修練者となり、1948年に初誓願。サレジオ会員として司祭への道を歩み始めたが、日本管区ではまだ司祭養成の体制が整っていないかったため、アメリカ・ニュージャージーのニューヨケッタ大学に留学し、哲学を履修した。帰国後、実地課程を育英学院（現サレジオ高専）で受け、体制の整った調布神学院で神学を学び、1959年3月8日に晴れて司祭に叙階された。叙階式でのモットーは、「私は主イエズ・キリストの十字架以外の何物にも誇りを置かないであろう。」（ガラテア書6：14）

司祭になつてからは、東京サレジオ学園、目黒サレジオ中学校、大阪星光学院、川崎サレジオ中学・高等学校などで特に英語の教師として働く。生徒たちからはユニークな先生として慕われ、その温厚な性格で特に靈的指導の面で生徒たちを指導した。

● チマッティ神父を模範として  
その後、関東地区的教会の主任司祭や助任・協力司祭として働き、また1999年から2006年まで目黒サレジオ幼稚園の園長を務め



リチャード・スマス  
Richard Smith  
1927年10月5日神戸市生まれ。  
1948年初誓願。アメリカにて  
哲学・調布神学院にて神学履修。  
1959年3月司祭叙階。日本各地の  
学校・教会にて奉職。2015年8月  
28日福島にて帰天。

（文／サレジオ会  
地を受け継ぐ。」（マタイによる福音書5：5）

常に温厚な人柄はだれからも慕われ、他人と争いをしたことはほとんど見えたことのない方であった。若い時からチマッティ神父の薰陶を受け、それを生き抜いたサレジオ会員であることを多くの人が認めている。師のへりくだりの姿勢とおだやかな態度は、生涯変わらず、目立つようなことを求めようとした少ない方であった。

地を受け継ぐ。」（マタイによる福音書5：5）

常に温厚な人柄はだれからも慕われ、他人と争いをしたことはほとんど見えたことのない方であった。若い時からチマッティ神父の薰陶を受け、それを生き抜いたサレジオ会員であることを多くの人が認めている。師のへりくだりの姿勢とおだやかな態度は、生涯変わらず、目立つようなことを求めようとした少ない方であった。

神のはからいは  
限りなく

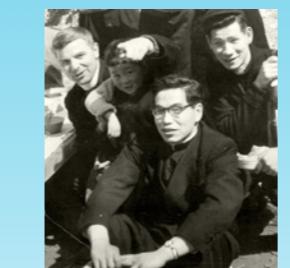
私は東京スカイツリーのある向島で生まれました。父は大工の棟梁として大勢の徒弟を抱える程でしたが、知人の保証人となつた挙げ句、家財道具全てを差し押さえられ、丸裸になりました。やむなく、隅田川を越えた、浅草にやや近い下町の長屋に移り住みました。小学5年の時に学童疎開で福島の喜多方に1年、さらに家族で軽井沢の伯母を頼って2年疎開しました後、落ち書きを取り戻した東京

1934年、東京向島生まれ。高校1年の秋に受洗、高校2年の春には神父を目指し、宮崎サレジオ志願院に入る。1961年司祭叙階。サレジオ会系の学校で40余り教職を務める。現在はサレジオ会大阪修道院在籍。

今回の応援隊員  
土屋・茂明

つちやしげあき

サレジオ会司祭



兄・故土屋真男神（1960年叙階・1968年帰天）の神学生の頃。左はシモン・チャリ神父、右はスマス神父。1965年頃、野尻湖にて。



1970年頃、大阪星光学院院  
員時代の授業風景

「もっと  
キミに伝え隊!!

## 「世の光」「地の塩」となって

サレジアンが心を込めて贈る  
あなたへ応援メッセージ

三ノ輪に移りました。私とすぐ上の兄は都立の高校に通うこととなりました。  
それから兄は学友に誘われて教会に行き、洗礼を受けると、私にも教会に行くように勧めました。一家で近くの三河島教会に通いはじめ、1949年、家を離れていた兄を除く全員で洗礼を受けました。翌年、すぐ上の兄と私は期せずしてサレジオ会司祭を志望し、家を離れました。当時三河島に赴任していたサレジオ会員、フランチエスコ・ロッシ神父の若く明るく、心温かい魅力に惹きつけられたのかも知れません。司祭叙階後、私は日本各地のサレジオ会系学校に派遣され、育英高専（現サレジオ高専）と大阪星光学院で教員として長く働いてきました。

ドン・ボスコの風

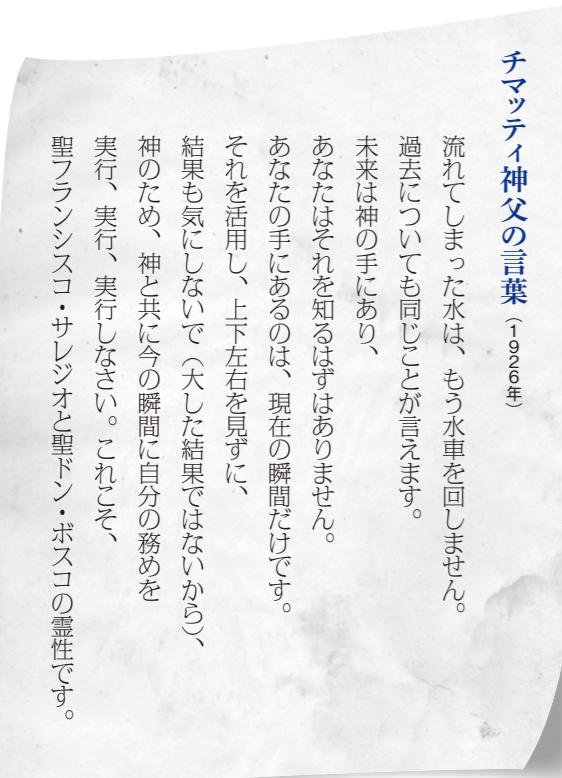
数年前の司祭叙階金祝の際、カードに「神のはからいは限りなく、生涯、わたしはその中に生きる」という詩編の言葉を記しました。それは、父と私たち一家が窮地に陥ることがなければ、わたしの司祭としての今もなかつたのではと思うからです。

この「学舎の祈り」は、叙階後初めて派遣された育英高専勤務時に創ったものです。「良いキリスト者、良い市民」育成を目指したドン・ボスコの願い、思いを込めたりが唱えられています。若い皆さん、この祈りを唱えて、将来良き社会人として「世の光」「地の塩」となつてください。

勇気ある人間としてください。世界の幸福に貢献する誠実な責任ある人間でありたい。この学舎に過ごす日々はぐんぐんください。はぐくんぐださい。照らし強め。真実を求める。自己の向上と隣人の善をたえず思う。



その類稀な音楽の才能から、生涯900曲以上も作曲し、日本各地で演奏活動を行った。



流れてしまった水は、もう水車を回しません。  
過去についても同じことが言えます。

あなたは神の手にあります。  
あなたはそれを知るはずはありません。

それを活用し、上下左右を見ずに、  
結果も気にしないで（大した結果ではないから）、

神のため、神と共に今の瞬間に自分の務めを  
実行、実行、実行しなさい。これこそ、

聖フランシスコ・サレジオと聖ドン・ボスコの靈性です。



聖劇「チマッティ神父 ドン・ボスコの心を伝えた宣教師」。下井草教会にて。

ヴィンチエンツォ・チマッティ神父は、1926年、日本への最初のサレジオ会宣教師団団長として46歳で来日し、1965年86歳で神に召されるまで、心から日本を愛し、宣教師として活動を続けました。その生涯は、神への想いと、人びとにささげられたものでした。

1976年11月26日に列福列聖調査が開始され、1991年には教皇ヨハネ・パウロ2世より、福音者の一つ前の「尊者」の称号を与えられています。今後の福音者の見通しなどについてチマッティ資料館（東京都調布市）館長のガエタノ・コンプリ神父は次のように語っています。

「列福のための師の生涯や靈性に関する調査はすべて終わって



チマッティ師の墓を訪れたファエンツァ現司教マリオ・トージ師（右から2人目）と前司教クラウディオ・スター二師（左から2人目）

昨年2015年10月6日は、チマッティ神父の帰天50年でした。東京都調布市にあるサレジオ神学院聖堂で莊厳な記念ミサがささげられ、チマッティ神父の故郷、イタリアのファエンツァからマリオ・トージ司教と11人の巡礼団も訪れました。同10月11日には、調布市のグリーンホールでチマッティ神父帰天50周年コンサートが行われ、チマッティ神父の作曲した歌曲を音楽家たちが熱唱。約800人が来場しました。

また東京都杉並区のカトリック下井草教会では、11月15日、教会学校の子どもたちによって聖劇「チマッティ神父 ドン・ボスコの心を伝えた宣教師」（指導／坂東輝帝、脚本／山家樹美子）が上演され、100人以上の観客がありました。



記念ミサの様子。調布教会にて。

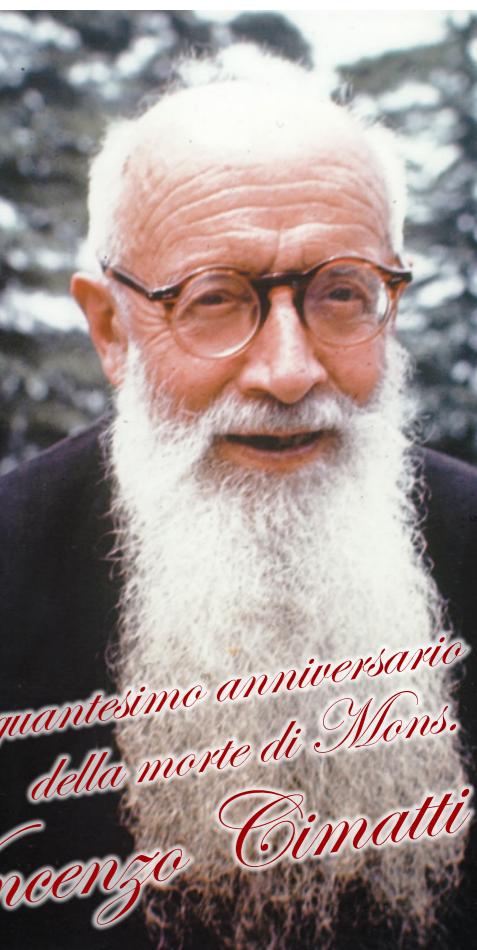


毎月多くの人が墓参りに訪れる。  
訪問者のノートは百数十冊に及ぶ。

各地で行われた記念ミサやコンサート、聖劇の様子、コンプリ師からのメッセージをお伝えします。

# チマッティ神父 帰天50周年

ドン・ボスコの心を伝えた宣教師



# 茨城県常総地区を訪問して

文・写真・サレジオ学院中学校生徒有志

昨年9月に大水害被災地を訪問した、サレジオ学院中学校（神奈川県横浜市）の生徒有志メンバーの報告を紹介します。

## 活動報告

2015年9月、関東・東北を襲った豪雨により鬼怒川の堤防が決壊し、茨城県常総地区は大水害に見舞われました。甚大な被害を被られた方々のためにできることは何かと考え、カトリック常総教会に相談して、災害から2週間過ぎた9月23日、僕たちは被災地でのボランティア活動に向かいました。

作業の行き帰りに、氾濫した鬼怒川や被災地を見ましたが、テレビで見て想像していた以上にひどい状況でした。泥と瓦礫が一面に広がり、田んぼの中には流された車が残され、店舗の再開もめどが立たない状況でした。標高の低い土地にある大生小学

校は1階の天井近くまで泥の痕がありましたから、2m50cmほども浸水したことわきました。石灰を撒いたことがわかりました。石灰を撒いたことが何とも言えない生臭いにおいが一面に広がっていました。泥まみれの家は、それを取り除けても残る湿気や臭いがどんなだらうかと想像し、胸が痛みました。

僕たちが待ち合わせ場所の水海道駅前に行くと、カトリック常総教会のシスター・コンソーラが出迎えてくれました。駅前では日系・ブラジル人やフリーピン人、ペルーなど教会の信徒の皆さんのがテントを張つて、食糧や物資配給の準備をしていました。シスターの

紹介で、NPOの方と一緒に、日本・世界各地から届けられた膨大な支援物資を保管しているつくばみらい市内に押し込まれた衣類や靴、布団などをいったん虫干しを兼ねてすべて外に出し、整理して、誰にでもわかりやすく配置するという作業を6時

間かけて完了させました。

支援物資の仕分けを手伝いながら驚いたのが、届いた支援物資の状態です。服を1枚1枚畳んで箱に入れ送った人や、クリーニングを済ませて送った人もいれば、まるでゴミのようにポリ袋に突っ込んで送った人、中には虫が出てくる袋も……。被災した方々

が1セットずつにまとめて送っている人が、物資の一つ一つに人の心が表れていました。被災地へ支援物資を送る場合は、受け取る人の気持ちは考えて送りたいと思いました。

ボランティアは1日だけでしたが、貴重なことを学ぶことができました。被災した方々の大変な生活は続きます。災害のことが世間の話題から消えかても、僕たちに何ができるのかを考えても、僕たちに何ができるのか表れているようでした。被災地へ支援物資を送る場合は、受け取る人の気持ちは考えて送りたいと思いました。



常総教会のシスター・コンソーラから作業の説明を受ける



倉庫から支援物資を外に出し、虫干しつつ整理



大生小学校の校庭には消毒の石灰が撒かれていた



被災した方々のために祈りをさげる

## お知らせ

## News

## Info



大船渡教会での初聖体式の祝賀会



扶助者聖マリア国際大会で



ウニオーネ世界連合総会、モルネーゼで



新総長のテレジア古木涼子シスター

**サレジアン・シスターズ**  
大船渡教会の初聖体式

三陸海岸、岩手県大船渡市の活気溢れる町を襲った3・11から4年。震災直後、大船渡の人たちと共に歩もうとサレジアン・シスターズが立ち上げた管区サポートセンターは4年間、カリタスジャパンのベースと連携しながら姉妹校や善意ある人びとからの寄付金や物品を届ける活動と並行して、カトリック大船渡教会からの要請で月1度の初聖体準備会に携わってきた。2015年も「聖体の主日」に5人の子どもたちが初聖体式を迎えた。彼らは皆ファイアーピン出身の母をもつ。信徒共同体と各家庭の協力なしには教会へ来ること自体不容易ではない中で1年間、親子一緒に準備してきたため喜びはひとしお。システムや協力者から白衣、手作りのペール、ストラ、プレゼントも集まつた。いつもはおふさけ大好きな子どもたちもこの日は神妙に「アーメン」としつかり答え、初めてキリストの御体をいただいた。ミサ後の祝賀会は笑顔と歓声とフィリピン料理の品々で賑わった。大船渡教会共同体はこの日「小さな」者たちに

ご自身を示される神の愛を味わい強められた。ささやかな奉仕で大きな恵みを共有できたサレジアン・シスターズにとっても感謝の日となつた。

### 扶助者聖マリア第7回国際大会

扶助者聖マリア第7回国際大会がイタリア・トリノで2015年8月6～9日に行われ、世界40以上の国から1200人以上が参加した。大会は4年毎に開催され、前回から「サレジオイタリアからは家族連れでの参加者も目立つた。今大会は「聖母マリアの家から私たちの家庭」」のテーマのもと、イタリアからは家族連れでの参加者も目立つた。今大会は「聖母マリアの家から私たちの家庭」のテーマのもと、神のあわれみは世代から世代へ受け継がれ、聖母マリアの家から吹く聖霊の風は、私たちの家庭や社会に祈りの習慣によって家族関係をしっかりと結びつけやすくなる場所をつくるという主旨。各國語の国際色豊かなアヴェ・マリアによ

るロザリオの祈りや交流等もあり、充実したプログラムであった。8日のヴァルドッコでのミサは、フェルナン・デス総長の説教も含めスペイン語で行われ、日本グループは浴衣を着て奉納の行列に参加。大会の閉会ミサは、「コツレ・ドン・ボスコ」でささげられた。大会前、日本の巡礼団はローマとアッシジも巡礼した。次回大会は2019年、アルゼンチンのブエノスアイレスで開催予定。教皇フランシスコが洗礼を受けたアルマグロの扶助者聖マリア大聖堂などで行われる。

### 扶助者聖母会同窓会

日本からはサレジオ会管区長の山野内倫昭神父、松本美恵子シスター、東京と浜松のADMAメンバーの16人が参加。イタリアからは家族連れでの参加者も目立つた。今大会は「聖母マリアの家から私たちの家庭」のテーマのもと、神のあわれみは世代から世代へ受け継がれ、聖母マリアの家から吹く聖霊の風は、私たちの家庭や社会に祈りの習慣によって家族関係をしっかりと結びつけやすくなる場所をつくるという主旨。各國語の国際色豊かなアヴェ・マリアによ

イヴォンヌ・ランゴアの講演を聞き、討議して「辺境」で「喜び」を証します。同窓生とシスター約240人が聖マリーア・マザレロの生誕地イタリア・モルネーゼに集まり、扶助者聖母会同窓会（ウニオーネ）世界連合の第5回総会・選挙が開催された。日本のウニオーネからは同窓生代表2人とシスター2人が参加。「社会の辺境にあって喜びの証人となるう」のテーマのもと参加者たちはサレジアン・シスターズ総長マードレ・

イヴォンヌ・ランゴアの講演を聞き、討議して「辺境」で「喜び」を証します。同窓生とシスター約240人が聖マリーア・マザレロの生誕地イタリア・モルネーゼに集まり、扶助者聖母会同窓会（ウニオーネ）世界連合の第5回総会・選挙が開催された。日本のウニオーネからは同窓生代表2人とシスター2人が参加。「社会の辺境にあって喜びの証人となるう」のテーマのもと参加者たちはサレジアン・シスターズ総長マードレ・

アボリナリスト村百合子総長が亡くなつて3か月が過ぎた2015年9月3日、イエスのカリタス修道女会は、第16回総会において、テレジア古木涼子シスターを新総長に選出しました。翌4日には、6人の総評議員が新たに選出され





©Guri Suzuki

## Strenna 2016

サレジオ家族  
年間目標

「聖靈にゆだねて冒險してみる」 それは、魂の内面深くを歩み、神の導きに心を研ぎ澄ませる旅です。イエスは、聖靈に導かれ、共に歩まれる父なる神の望みをたえず求め、その「冒險」を生き抜きました。マリアの人生もまた、聖靈による冒險の旅でした。行き先が見えなくても、神に信頼して歩んだのです。ドン・ボスコも、神が彼自身と若者のために望んでおられることに応えようと、聖靈に心を開き全生涯を生きました。私たちも、毎日の生活を聖靈に導かれながら、魂の道を深く歩むよう招かれています。不確かな道のりの終着点、そこには心奪われるすばらしい世界が開けます。その道のりは、①深い信仰体験を味わい、②信仰を分かち合う仲間を育み、③憐れみと兄弟愛において成長すること、によって具体的に表されます。愛する若者の皆さん、一緒にこの冒險に旅立ちましょう！ きっとすばらしい実りがあるでしょう。聖靈は私たちに驚きと挑戦、ひらめき、魅力を与えながら、共に歩んでくださるのです。



サレジオ会総長 アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父  
2016 スレンナ要約より